

Aichi

あいちの学童保育

県連協ニュースNo. 3号

2020年10月6日発行

愛知学童保育連絡協議会

TEL:052-872-1972 FAX:052-308-3324

Email:aichigakudou@gakudou.biz

http://gakudou.me/aichikenrenkyou/

愛知県福祉部子育て支援課と 懇談しました



9月11日(金)10時～11時30分、愛知県自治センターにて、愛知県の学童保育の担当課である福祉部子育て支援課と懇談しました。

参加者は、子育て支援課から5人、愛知県議会から筒井タカヤさん(県政自民クラブ)と朝倉浩一さん(新政あいち)の2人、県連協から5人です。

例年は各地域から参加者を募り、30名程度で開催していますが、今年は新型コロナウイルス感染症対策として、人数を少なくしての開催となりました。懇談は、県連協から事前に提出した「愛知県の学童保育施策拡充を求める要望書」に子育て支援課から回答を求めるかたちで進められました。

要望項目と回答(要点のみ)については以下のとおりです。

1. 国の巡回アドバイザー補助金を使い、数年かけて愛知県全体の学童保育が放課後児童クラブ運営指針に基づいた一定水準の質を持ったものになるよう、県として方針を持ってください。

A. 必要性は理解している。現状では実施主体である市町村からの要望はないが、市町村にヒアリングして考え方を聞きながら検討したい。他の都道府県の事例を参考にしたい

2. 国へ以下のことを上申してください。

①資質向上研修は、5人程度のグループワークを活用する等、参加者が主体的に学べる研修とすること。

A. キャリアアップ研修は、1テーマで90分～110分のグループワークを実施している。少人数のグループワークの意義は理解しているが、規模・定員・回数・財政を考えると現状では厳しい。国に要望したい。今年度は新型コロナウイルス感染症対策で定員を減らしたため実質的に50人程度での開催見込みとなった。

②処遇改善事業活用で学童保育指導員の処遇改善を必ずおこなうこと。また、実務の簡素化をはかること。

A. 毎年の市町村へのヒアリングでは、手続きが煩雑であるという回答はないが、話としては聞いている。16大都道府県主管課長会議で国に緩和を要請したい。

③安定した運営ができ、学童保育指導員が午前中から複数配置できる運営費の補助基準額にすること。

A. 増額は全国的な課題であるので、16大都道府県主管課長会議で要請している。

④しょうがいのある子の受け入れをさらに進めるために、「放課後児童クラブ障害児受入推進事業」の費用を、常勤の職員が配置できる額(少なくとも医療的ケア児受け入れの額)にしてください。また、「放課後児童クラブ障害児受入強化推進事業」を「放課後児童クラブ障害児受入推進事業」にあわせ予算を増額するとともに、両事業とも、しょうがいの実態に合わせ使いやすく、かつ手続きの簡素化をすること。

A. 国の制度に改善が必要という意見が都道府県にあるので、16大都道府県主管課長会議で要請している。

3. ひとり親家庭等、日中の生活の場や家庭支援を必要とする子どもたちが、優先的に学童保育に入れるよう、国・県共に補助制度等を創設してください。

A. 実施主体は市町村だが、全国知事会で無償化を要望している。16大都道府県主管課長会議でも挙げている。

後半は、子育て支援課からの回答をもとに、学童保育だからこそ巡回アドバイザーが必要であること、コロナ禍での保育の難しさ、学童保育指導員の経歴が多様であるために研修の充実が急務であること、子どもの生活環境の充実として施設の木造化を推進してほしいことなど、各地域や学童保育の現場や研修の実態を県連協から伝え、県議会の動きもふくめ、県行政と濃密に意見交換することができました。

愛知県が学童保育の施策を拡充していくために、県連協として、これからも県行政に要望・提言・はたらきかけを続けていきます。

コロナ対応緊急アンケートの集計結果

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、小学校が一斉休校となりましたが学童保育には午前中から開所の要請があり、保護者、学童保育指導員、運営に、多大な負担がかかることになりました。愛知県連協ではその実態を調査するため、緊急アンケートを実施いたしました（実施期間 7/20～7/31）。ご回答いただいた皆様には感謝を申し上げます。ここでは簡単にそのまとめをご紹介します。概要まとめは県連協 HP に掲載済みですので併せてご覧ください。

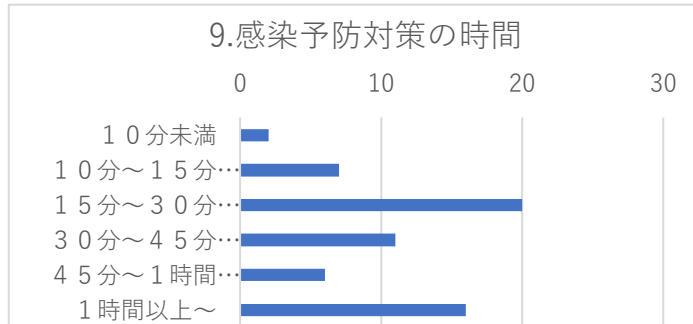
① 保護者向け（回答数 678 件）

利用自粛状況では、全期間自粛した方は 28% であり、その他の 72% の方は学童保育を利用していました。保護者自身に関しては、首都圏と異なり、愛知県では在宅ワークは進んでいないようです。

医療関係者や社会インフラに関わる方など出勤せざるを得ない家庭からは、感染リスクがある中での学童保育指導員や運営に対しての感謝の気持ちを回答いただきました。外遊びができなくなったなど、保育内容に関することや、自粛期間中の返金についての要望もありました。

② 学童保育指導員向け（回答数 72 件）

開所状況は、90% が午前中から開所でした。業務については、ミーティングを開けていない（29 件）、シフト変更を繰り返す（36 件）、休みがとれなかった（13 件）、といった問題が起きていることが分かりました。感染予防対策にかかる時間は下記の通りですが、準備や後片付けに割ける職員の人数によって変わるのではないかと考えられます。



第二波については、子どもも学童保育指導員も感染におびえていること、自粛の再要請ができるか？三密の回避に神経質になっていること、子どもの心のケアなどが懸念事項として挙がっています。

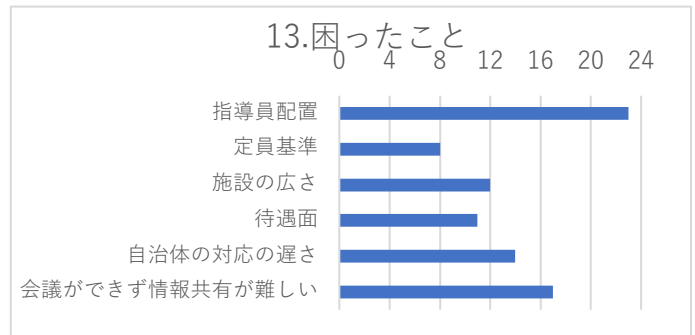
③ 運営者向け（回答数 32 件）

補助金については、6% が使っていませんが、81% は活用しており、知らなかったという回答は 0 件でした。困りごとはおおむね学童保育指導員の困りごとと共通し、学童保育指導員の配置については、ほぼすべての回答者が「ギリギリ」と答えていました。

④ まとめ

第二波については、見えない恐怖との闘いであり、心理的な負担が大きいことが、保護者・学童保育指導員と

もありました。三密の回避の困難さを実感しながらも、現状の落ち着いた感染者数での『慣れ』による予防策の軽視が懸念されます。運営面では利用自粛をどれだけ保護者にスムーズに要請できるか、午前開所での学童保育指導員の配置など、今回明らかになった問題点を事前に検討し対処することが必要と感じました。（ハンドブック部会 藤田）



県連協 HP 概要まとめ URL

<http://gakudou.me/aichikenrenkyou/posts/post12.html>



ほいく誌コラム

2020 年 9 月号 緊急特集
「新型コロナウイルス感染症」
～学童保育の生活づくり～



突然の「全国一斉休校発表～学童保育は開所」からはや半年。まだまだどうなるか先が見えない今、学童保育指導員として、保護者として見た子どもの様子や生活づくりの記録を書き残しておくことはとても大切なことだと考えていたので、興味深く読みました。

愛知でもそうでしたが、一日開所のための学童保育指導員確保がどこの地域も大変だったことがわかります。吹田市の記事には「人員不足への対応として他部署からの応援派遣が提案されたが、多様な人の出入りは感染対策上、望ましくないと考え断りました」と書かれています。「ほんと、いつも簡単に言ってくれちゃうよなあ」です。人手があればいいってもんじゃない、そんな仕事じゃない、そんな場所じゃない、ってことを理解してほしい、特に行政には。想定外の緊急時に突然送り込まれた人に、衛生管理やメンタルケアや、子どもの意見や気持ちを汲んだ生活づくりを、保護者との連絡を、任せられますか？ということ。全国から寄せられたアンケート回答を読んで、そんな中で奮闘した学童保育指導員の様子、保護者の応援に学童保育の底力を感じたので、余計に強く思ったことです。直接会える機会が少ない今だからこそ、こうした事実や思いを共有できるほいく誌があって本当によかったと思います。

（名古屋市・保護者 0B）